神の認識について

鎌 田 輝 男

『ファウスト』「天上の序曲」中の「天使たちの歌」にある接続詞 wenn と da の意味について検討したい。両者を含む2文を1文にまとめると，Ihr/Der Anblick gibt den Engeln Stärke,|Wenn/Da keiner sie/dich ergründen mag. 以下の考察の前提として，この「歌」が天使たちの言葉であることを指摘しておきたい。上記接続詞以外にも語内容の曖昧さを指摘する注釈もあるが，筆者は Ihr と sie は太陽，keiner は keiner von den Engeln，mag は話し手の推定を意味すると考える。2接続詞の邦訳にはどちらも接続助詞〈が〉があてられることが多いが，da を理由の意味にとる注釈もある。その根拠は『格言と反省』中の das Unerforschliche ruhig zu verehren である。さて，筆者は「歌」の使用語を『旧約聖書』「知恵の書」の1部分のそれと比較して〈四大〉を表す語を中心に分類した結果，両者において〈主／汝〉と〈四大〉と〈認識〉と〈人間／天使〉の4項目を得た。両テキストで問題は認識である。「書」で認識を表す語は，神を目的語とする〈認識〉，四大を神と見る〈思いなし〉，四大を目的語とする〈探究〉の各語群に3つに分けられる。「書」の筆者は四大の探究が神の認識に至らないことを歎く。「歌」の場合，認識を表す語は直観 Anblick（認識群）と解明 ergründen（探究群）である。「書」では神を認識しない人間は四大を探究し，「歌」では太陽や主を解明（探究群）しない天使は太陽や主の御業を直観（認識群）して元気づく。すなわち，「書」では神の認識は否定形，四大の探究は肯定形，「歌」では直観が肯定形，解明が否定形の文脈で使用されている。両テキストでは認識と探究は肯定否定が逆の関係にあり，両者は相容れない。前出ゲーテの言葉にも探究と崇拝の区別が読取れる。崇拝は，直観を含む神認識の延長線上に位置する。この立場の特徴は，崇拝も含めて，それが〈天使たちを元気づける〉ことである。認識と探究は2つの異なる態度であると言える。さて，注釈では，時や条件を表す wenn は譲歩や逆接の，理由を表す da は相反や譲歩の意味に解されることが多い。次に譲歩・逆接・相反をA群，時・条件・理由をB群に分けて文の意味内容との関係を具体例で検討してみる。[A] 空腹でなくても／ないけれど／ないのに，これはおいしい。[B] 空腹でないとき／ないなら／ないので，これはおいしくない。この例から，A群とB群は逆の関係にある。ところで，この例文には〈空腹であれば，おいしい〉が前提されている。では，「歌」の問題の文をA群にあてはめた場合，〈それ（太陽）／汝（主）を解明しなくても，その直観は天使たちを元気づける〉の前提は，〈解明すれば，元気づく〉である。この前提は，前出の認識と探求の矛盾性に反する。2接続詞は，時・条件と理由を表し，動詞〈解明する〉の目的語に応じて使い分けられているように思われる。四大の太陽は探究の対象たりうるので，wenn は，〈太陽を解明しないとき〉と条件を，また，da は，天使たちにとって神の解明は問題にならないので，その理由を表すために使用されたと見られる。